

# 天竜川ダム再編事業佐久間ダム環境検討委員会

## 設立趣意書

天竜川は「あばれ天竜」とも呼ばれ、沿川では古くから大きな洪水被害をたびたび受けており、近年も河岸の決壊や家屋の浸水などが生じている。

沿川に広がる扇状地は、豊富な地下水や交通の利便性に恵まれ発展しており、洪水被害の危険性を小さくすることが求められている。

また、天竜川は中央アルプス・南アルプスの間を流下する急流河川であり、流域は中央構造線等による急峻地形で脆弱な地質のため、土砂の生産量・流出量が多く、流域の土砂災害、既設ダムの堆砂、ダム下流河道における滞筋の固定化、河口海岸域の侵食等が問題となっている。

以上のような背景のもと、天竜川ダム再編事業は、既設の利水専用ダム（佐久間ダム）を有効活用し、新たに治水機能を確保することで、天竜川中下流部の洪水防御を図るとともに、佐久間ダム貯水池機能の保全を図るために、恒久的な堆砂対策を実施することにより土砂移動の連続性を確保し、海岸侵食の抑制等への寄与を目指すものである。

本委員会は、天竜川ダム再編事業による佐久間ダムに整備する洪水調節施設及び恒久堆砂対策施設の工事の実施及び運用が佐久間ダム周辺環境へ与える影響の予測の実施、環境保全措置の検討及び評価並びにモニタリング計画の立案について助言を得ることを目的として、関連する有識者で構成する委員会を設置するものである。